

カトリック 高松教区報

2006年9月3日(第113号)
 発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
 〒760-0074 高松市桜町1-8-9
 TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
 Email
 教区:tkcuria@mxi.netwave.or.jp
 広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
 生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
 http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



協力宣教司牧を考える

高松教区長 溝部 脩

高松教区は今年から協力宣教司牧態勢に入ると宣言し、ある地域はその実施に入っています。高松教区にとつては初めてのことで、馴染みも薄く、切実なこととは感じられていないことでしょう。それではどうしてこの態勢に入ったのでしょうか。

今まで一小教会一司祭という態勢が当然と思われてきました。司祭に任せられた地域を一司祭が信者の助けを借りて宣教司牧するという体制でした。「交わり

宣教と交わりを中心に 三人寄れば文殊の知恵

三人寄れば文殊の知恵

の教会」を大事にするという視点からこの小教会のあり方を考えてみようというのが協力宣教司牧です。今までの一小教会一司祭の体制を広げて、数小教会が一緒になってその地域の宣教司牧を考えようとするのです。数人の司祭が集まって共同の目標を定め、仕事を分担します。共同でできる行事は共同で組んでいきます。合同で行われる信徒会では、その地域にどのように働

きかけることができるか、知恵を出し合って、より良い教会作りを目指します。

この態勢は、「宣教」を主体に考えていることです。今までどちらかというと内向きの「教会共同体」ということに主眼点があり、閉鎖的な、発展性のない教会に満足していた嫌いがあります。人が来ない、若者が居ないという嘆き節が多い教会でした。それ

を脱却するために広く知恵を出し合って教会を考えてみようとしているのです。自由に発想し、地方都市を活性化しようとしている地方自治体と少し見習う必要もあります。決まった行事を決まった通りに行ってきた態勢を見直していかうというものです。「三人寄れば文殊の知恵」と言われますが、まさにその通りです。小さいか、大きい、アイデアを出し合って、ある



聖母被昇天の祝日
 聖信式にて
 (於:桜町教会)

べき教会の姿を探求する必要があります。半ば諦めている教会に活を入れる態勢と考えるのは言いすぎでしょうか。

この態勢は「交わり」を大事にします。一緒に決めて、合意したことを守るといのが原則です。これは各自の自由を束縛するものではありません。合意して、力を出し合って働くのです。ことを成就するために、助け合って労を惜しみません。共同の宣教司牧活動を通して、司祭たちは深い交わりへと導かれます。同様に信徒会も同じ目標を掲げるところで信仰によるつながりを感じるようになります。ばらばらの活動を一つの目標に向かわせることが大きな実りをもたらすようになります。

(次号につづく)

はばたき

幼児教育の権威、相良敦子教授監修の「ひとりでできた！」の帯封に『ただをこねるのにはワケがある』とありました。これは幼児期の「敏感期」に関係していることなのですが、子どもからの信号はどれも見落としてはならないことばかりだと言うことでしょう。「こら」と叱る前に是非その理由を聞いてあげたいものです。

また、これはおとなの世界にも当てはまることだと思えます。世界の紛争は大抵は相手の事情を考えることなしに起こっています。しかし、「相手のことを考えて行動する」とは、キリスト教の隣人愛の精神に他ならないのではないのでしょうか。



サレジオ志願院学生が高松を訪問

〈青少年委員会主催〉

七月一四日〜一六日サレジオ志願院（三重県四日市市）の高中生九名が高松市を訪れた。教区内の高中生との交流を目的として、溝部司教様と教区青少年委員会が要請したもので、一五日（土）には海水浴や観光を楽しんだ。一六日（日）には、桜町教会においてコーラスや演奏を披露し、ミサ後の食事会で、教区内から集まった約二〇名の中高中生・リーダーと交流した。

ウタのチカラ

中島町教会 高二 野村健介

僕は、サレジオ会の学生たちと、Br八木にとってもよい経験をさせてもらった。その「よい経験」というのは、「歌の力」を深く教えてもらったことが出来たことだ。教えてもらったと言うのは、言葉で教えるよりも、何かを教えられる。今回、僕は、桜町教会で行われた。



桜町教会でのコーラス

れる集いには、特別興味を持っていない。何かある程度のこと

としか思っていなかった。

しかし、日曜の御ミサが終わった後、Br八木から誘いがあり、初めは学校の終業日があつて、いかなかったせいもあり、返事に迷った。しかし、参加が出来ることになり、少しずつ興味も湧いてきたので行くことにした。

この時、僕は歌うという事はあまり特別好きとか、興味があるという事ではなかった。

しかし、こんな気持ちがある今回の出来事で、大きく変化した。出来事というのは、サレジオ会の学生たちの合唱を聴いたことと、共に歌った事だ。

皆さんは、たったそれだけの事で、気持ちに変化するものなのかと疑問に思うかもしれないが、サレジオ会の学生たちの歌には、僕

の気持ちを動かす何かがあるに気がついた。

そして、皆で歌うことで皆が一つになれた。それは、その後のサレジオ会の学生たちとの食事会でとてもよく分かった。

僕は、普段からとても人見知り、が激しく、大体、一日くらい時間を掛けないと普通に話すことが出来ない。しかし、今回は共に歌うという「共同作業」をしたことにより、普通に友人と話すように話が出来た。この時、僕は歌の力を強く感じた。

この日から、僕は御ミサなどで歌を歌うとき、精一杯声を出し気持ちをこめて歌うようにした。「歌の力」を信じて……



昼食後に記念撮影
(四国カトリック会館)

<http://www.youth.takamatsu.catholic.ne.jp/>
青少年委員会のホームページもご覧ください。

長崎教区が 殉教者の列福式候補地に

高松教区広報委員会 和泉文男

カトリック新聞によりまずと、溝部司教様を取り組まれている、ペトロ岐部と一八七殉教者の列福式について、七月六日に開かれた常任司教委員会で、来年行われると言われている殉教者の列福式会場として、長崎教区が候補地に選ばれました。

また、列福準備司教特別委員会の委員に高松教区の溝部脩司教様、大分教区の宮原良治司教様、長崎教区の高見三明大司教様、京都教区の大塚喜直司教様が決まりました。

そのほか、列福式等に必要資金集めのため募金活動も始まりました。募金目標額は三千万を予定しており、各教区や修道会、カトリック関連施設等を通じて呼び掛けをしていくと言うことです。私たち高松教区信徒の皆様方も、この募金活動に協力をしましょう。

会議報告

「召命を求める祈り」 主日のミサで祈ることを決定

司祭評議会
・宣教司牧評議会役員会

第五回司祭評議会が七月一日に、第三回宣教司牧評議会役員会が七月一四日に開催され、「召命を求める祈り」が公認された。召命促進は高松教区の最優先課題の一つであるが、継続的に召命を神に祈り、祈ることによって一人ひとりが固有の召命を意識して生きることが目的としている。この祈りは教区民全員の祈りとして、主日のミサの共同祈願に加えて唱えられる。

その他の主な決議内容は次の通りである。

1 新居浜教会レドンド神父様はスペインへ帰国され、暫定的に下田神父様が主任代行を務め、新居浜聖母幼稚園園長は今治教会主任村上神父様が兼務する。

2 今年、県単位で開催される教区民のつどいの日程がほぼ決定し、各地区で準備が進められている。

愛媛県九月一七日
徳島県一〇月一五日
高知県一〇月二九日

香川県一〇月五日

3 今年の平和旬間行事を以下のように定める。

① 八月五〜六日の広島平和行事および平和祈願ミサに参加する。
② 日本司教団の合意に基づき、各教会は、八月一五日もしくはそれに近い主日にミサを捧げる。

③ 徳島地区青年有志の主催で企画されている八月一二日〜十三日の「阿波踊り、踊って、歌って、平和を語る！」は、楽しんでだけでなく、真剣に平和について考える機会が設けてあるので、教区後援とする。

④ 平和旬間からは外れるが、一〇月七日、香川県民ホールで「Nagasaki 1945 アンゼラスの鐘」を上映する。

⑤ 平和その他、社会問題に関する教区の取り組みが遅れているが、カリタス、移住、正義と平和などを統括する委員会を、政治色のないよう配慮しながらどのように立ち上げていくか、今後の課題である。

4 高松教区全司祭研修会が、聖体の年の一環として一〇月八日〜九日に四国カトリック会館で開催される。講師は、ザベリオ会フランコ・ソットコルノラ師。テーマは「日本人の感性と典礼のシンボル」。

海や山に囲まれている新居浜に私が来たのは丁度十年前でした。生涯養成の一年間を終えたばかりの私は、司教様が与えて下さった務めを楽観的に受止め、一生懸命それを果たするという気持ちでした。

カトリック新居浜教会の皆さんと過ごした日々には、色々なことがありましたが、それでも何よりも神様に感謝してとても良かったと思います。また、皆さんにも感謝しなければなりません。この長い年月、私達は主がなさった業の証人でした。

主の働きは、まず典礼をおして見られたと思います。その中で中心になったのは主日の感謝の祭儀でした。皆さんが心一つにして神の家族のように喜びを持ってキリストの死と復活を祝ったのです。特に最近日曜日のごミサを楽しみに待っていました。また、主の働きにより何十人の兄弟姉妹が、洗礼を受け神の民に加わり、主の食卓を囲んでいます。

主が教会の務めをおして病気を抱えた人々のそばにおられ、聖体を与えたり、病者の塗油の秘蹟を授けたり、そして、召された兄弟姉妹を教会の皆

レドンド神父様お別れの挨拶

さんとともに神様のもとに見送って下さいました。この悲しい時に多くの信徒の皆さんがお通夜や葬儀のごミサに与ったのは感激でした。

私には自分だけでは出来ないことがたくさんありましたから、よく信者の皆さんに色々な仕事を頼みました。結果として何倍もの仕事が出来ましたし、うまく進んで行ったと思います。皆さん、よく手伝っていただきありがとうございました。今後とも下田神父様の力になって下さることをお願いいたします。

スペインでの仕事は、今までは対照的です。幼稚園や土曜学校の子供たちとは違います。退職された宣教師の方々を世話することです。考えて見ると、これは私の人生の節目です。きっと神様は新しい道を開いて下さいます。たぶん祈る時間が多くなるし、勉強の時間もあるでしょう。そして、新居浜より余裕が出来ると思います。

皆さんから離れるのは辛いけれども、祈りには距離がないので、祈りのうちに皆さんの近くにいたいと思っています。皆さんに心から感謝いたします。

スペインへ帰国されたレドンド神父様から
新居浜教会の皆さんへ宛てた手紙です。

各地区だより



みんなで生き生きとした 郡中教会を育てましよう!!

郡中教会 高橋美由紀

私は、長崎県の黒島という小さな島で生まれ育ちましたが、家の隣に教会があり、私達兄弟は、いつも教会の周りで遊んでいました。今は島の人口が減っています。私が幼少の頃は子供が多く、教理の勉強は、遊び感覚で教会に行っていたように思います。

しかし、なぜだか分かりませんが、高学年になるにつれ、御ミサに行くのが嫌になりましたが、信仰深い両親に促され、渋々教会に行っていた状態でした。

中学卒業後、岐阜に就職し、働きながら学ぶ四年間でしたが、「いつでも神様はいてくださる。ちゃんと教会に行ってお祈りするよう」と両親は、岐阜の教会へ転出証明書を送ってくれていました。

離れた土地ですから、行きたくなければ行かなくても、両親には分らないのですが、休まず教会に行っていました。行く気持が落ち着くのでした。

やがて、私にも恋をする年頃が

おとずれ、彼が出来ました。その彼と一九九二年に結婚し、彼の実家がある愛媛に住むようになり、郡中教会に転入してきました。

愛媛に来て一四年、親兄弟のいないこの土地で、私は主人をはじめ、たくさんの人に助けられてきました。お腹に長男がいる頃、手術で入院しましたが神父様のお見舞いをいただき、お祈りして下さいました。不安だった私は、いただいたルルドの水を飲み、神様の愛に励まされ、手術は成功しました。おかげさまで今、私には三人の息子がおります。

しかし、それはそれは大変な子育ての毎日でした。息子達が二、三歳の頃は、御ミサ中も息子達がゴソゴソ、バタバタとともうるさく、私は神父様の説教も満足に聞くこともできず、また周りの信者さん達もうるさかっと思いましたが、でも、信者の皆さんは、嫌な顔もせず、笑顔で頭をなでて下さったり、声をかけて下さったりと、可愛がっていただきました。そんな息子達も、少しずつ落ち着き、今は侍者をしています。まだまだ頼りない息子達ですが皆さんに見守られ頑張っています。

この一四年の間、いつも私と息子達を支えてくれていた主人は、よく私たちと一緒に教会に来てく

徳島教会・番町教会 合同ファミリーキャンプ

7/22~23高松市塩江町
「大滝大川県立自然公園」にて

たのしかったうしのちちしほ

徳島教会小一 かんれいともし

キャンプで いちばんたのしかったのは、うしのおちちしほりです。うしのおちちにさわると きもちよかったです。つよくにぎるとシュッと おちちができました。のんだらあまかったです。

「ファミリーキャンプ」ありがとう

徳島教会 生田久美子



何となく晴れ。奇蹟としかいいようのない晴れ。やっぱりね。神様は必要なものをちゃんと用意してくれるんですね。

でも、神様が用意してくれた本当の奇蹟は「人」だったかもしれない。だって、私はキャンプを通してびっくりするくらいたくさんの人に気づき、近付くことができたのですから。『自分の楽しみをさて置いて厨房を手伝ってくれた人』『自分は参加できないのに様々な寄付を差し出してくれた人』『全力投球でキャンプを盛り上げてくれた番町教会のみんな』『ずっと子どもたちを見守ってくれた若者』あげればきりがありません。たくさん援助をくださったみなさん、せっかく天国に宝を積んでいるので、お名前は私の心の中にしまっておきますが、「本当にありがとうございました」そして「これからもよろしくお願ひします」



溝部司教様を囲んで

れました。そんな主人を、ハビエル神父様をはじめ、信徒の皆さんは暖かく迎えて下さいました。

息子達の成長や年を重ねるうちに、主人は自然と教理の勉強をしていきましたが、昨年一二月に皆さんが見守る中洗礼の恵みを受けました。そして今年六月には長男と共に溝部司教様から堅信の秘蹟をいただきました。今、私と息子達は喜びでいっぱいになっています。



高橋さんご家族

日々、進歩している主人と息子達。その中で何も変らない私に典礼委員のお役をいただいたのは二年前です。何をしたらいいのか戸惑う事ばかりで、いかに今までも考えずに御ミサに与っていたかを考えさせられました。現在、毎週の御ミサの当番表を

作り、聖歌の練習をし、詩篇まで歌うようになった私に、自分でも本当に驚いています。これも信徒の皆さんの励ましとご指導のおかげだと思っております。

でも、一つだけ言わせてください。「あなたは若い人だから」、「これからはあなた達若い人の時代よ」の言葉は私にとって重いのです。

やりません。やれることは頑張ります。しかし、皆さんの力が要るのです。若いとか年とかに関係なく一人一人の神様への思いが行動となり、郡中教会を生き生きとした教会にできるのではないのでしょうか。

これからも皆さんと共に頑張っていきたいと思っております。郡中教会の未来の為に・

二〇〇六年ルルド祭詠草

教会のルルドの泉に手を合し面輪やさしくマリア像立つ
教会の五月の庭にオルガンの響きてルルド祭のミサ始まりぬ
聖歌流れ神父の列の進みゆけり五月の庭のルルドの泉
ルルド祭の聖母マリアに信徒らの声合し捧ぐロザリオの祈り
ピレネ山麓ルルドの村に湧き出ずる聖母マリアの恵みの泉

中谷美智子様は、東かがわ市の在住の未信者さんですが、毎年三本松教会のルルド祭に参加し、ミサに与っている方です。今回、五月二十八日に行われた三本松教会のルルド祭に参加し、詠まれた詩を投稿してくださいました。(広報委員 和泉文男)

東かがわ市 中谷美智子

より豊かな結婚生活を

MEの道を一緒に歩んでみませんか

江ノ口教会 山下多加子

私たちがMEと出会ったのは、一九八六年当時の主任神父であった松永神父様に勧められて参加することにしたのがMEを歩むきっかけとなったのです。私たちはMEのことは何も知らずに神父様に勧められるまま「ハイ」と返事をしてMEが行われる高松へ出かけて行ったのです。高松には四国から二〇組のカップルと四人の神父様、二名のシスターが集まり二泊三日のMEが始まりました。このウィークエンドが四国で最初のMEでした。

少し戸惑うこともありましたが、お互いの心の中での会話ができて、これからの共同生活(小さな教会)に生かして歩いていく様にとウオード神父様の熱心なご指導で楽しい三日間でした。高知に帰宅して間もなくウオード神父様から電話がありました。それは、私たちが少し危ない(MEから離れるのではないかと)と心配をして電話をくださったんじゃないかと二人で大笑いしたことを懐かしく思い出されます。その後定期的に開かれていくMEに参加していますが、参加のたびに新しい気持ちとなり「小さな教会」を考える機会に恵まれています。今年、八月に中島町教会でMEが開催されましたが、これを機に、多くのご夫婦がMEを理解し、ウィークエンドを受けられ、より豊かな結婚生活を送られますようお願いをしています。



「みかんの花咲く丘」等大合唱：旧交を温める

阿南教会で恒例の合同食事会

阿南教会 渡部康雄

徳島地区の合同食事会が、六月一日阿南教会で催されました。この合同食事会は、信徒間の親睦をはかるため、毎年、この時期に三教会が持ち回りでやっているもので、今年は、阿南教会に徳島、



旧交を温めるひととき

鳴門、阿南から五〇数名の信者さんが参加されました。食後、各教会から出席者の簡単な紹介があり、続いて、

阿南教会

の信徒さんたちが、ピアノに合わせて「夏は来ぬ」と「みかんの花咲く丘」を歌いました。テーブルに飾られた卵の花を見ながら、懐かしいこの名曲に、あらためて日本の初夏の風景を想いおこしていたのではないのでしょうか。

その後、御聖堂で、聖体賛美式が行われました。信者さんたちの旧交を温めた梅雨の晴れ間の一日でした。

人生の秋に

徳島教会 友成ヤエ

「最上のわざ」

この世の最上のわざは何？

楽しい心で年をとり、

働きたいけれども休み、

しゃべりたいけれども黙り、

失望しそうなときに希望し、

従順に、平静に、おのれの十字架をになう。

若者が元氣いっぱい神の道を歩むのを見ても、ねたまず、

人のために働くよりも、けんきよに人の世話になり、

弱って、もはや人のために役立たずとも、

親切で柔和であること。

老いの重荷は神の賜物。

古びた心に、これで最後のみがきをかける。

まことのふるさとへ行くために。

おのれをこの世につなぐさを少しはずして行くのは、

真にえらい仕事。

こうして何もできなくなれば、

それをけんそんに承諾するのだ。

神は最後にいちばんよい仕事を残してください。

それは祈りだ。

手は何もできない。けれども最後まで合掌できる。

愛するすべての人のうえに、神の恵みを求めるために。

すべてをなし終えたら、臨終の床に神の声をきくだろう。

「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」と。



これは、私が愛読する月刊誌『カトリック生活』七月号に書かれた土居健郎先生の「ホイヴェルス神父と日本」という記事の中にある詩です。

なつかしかった。というのは、私もまたホイヴェルス神父に会っていたからです。南山大学の学生時代、そして、卒業後四ツ谷のイグナチオ教会で。

神父とは、親交があつたわけではないけれど、なぜか心ひかれたものでした。

「この世の最上のわざは何？」

いのち輝く青春まったただなかで、神父と出会い本と出会いその出会いの中で見つけたひとつの詩、それが「最上のわざ」でした。その時、「人生の秋」「老い」など考えてもいなかった私だったけれど、その詩は私の心をとりにしました。

時は流れて、私も人生の秋にさしかかった今、その詩が再び私の前に姿を見せたのです。なんと神のはからいでしょう。私はなんでも読み返しました。

読み返すうちにこの詩がいや人間というものがせつないほどいとおしくなりました。そして、それは神への感謝となりやがて祈りへとかわっていききました。

「来よ、わが友よ、われなんじを見捨てじ」私もまたいつか近い将来、神父と同じ神の声を聞くでしょう。その時まで、私は「古びた心に最後のみがきをかけて」待ちましよう。「老いの重荷は神の賜物」だから。

偶然にも再会したこの詩を私だけのものとするのは惜しい気がして、みなさんに紹介させて頂きました。

至福の日

司教様の暑中見舞い

中島町教会 岡副俊雄

今日は至福の日だった。何が... 勿論わけがあります。お二人の司教様から同時に暑中見舞いのハガキを戴いたのです。正確にはこちらからのお便りに対するお返事なのですが。お二人ともご多忙なお方なのに、一介の信徒に過ぎない地方の人間に、ちゃんとお返事を下さるのですから、感激です。森司教様はいつも綺麗な、多分お手製のハガキなのでしょうが、とても爽やかな絵柄に書いて下さるのです。「どうぞ皆様方によるしくお伝えください」とありますので、この欄を借りてお伝えします。一方平賀司教様は、文中「今日七月一九日、二年前の丁度今日、溝部司教様の高松教区に着座でした」と書いて下さいましたし、共にお二人の司教様は「皆様の上に豊かな恵みがあり、益々のご活躍をお祈りします」と私たち高松教区のことを気にかけて下さって居られることもお伝えしておきます。人との出会いは「二期一会」ではなく、長く心の繋がりをもち続けたいものと思えます。

徳島教会創立100周年記念式典開催

徳島教会は1906年(明治39年)、ドミニコ会のアルバレス神父様によって創立され、聖パウロ三木に捧げられましたが、来る11月23日に当教会の歴史、歩みを皆様方と共に懐古し、お祝いするために記念式典を開催することになりました。関係者はじめ、皆様方のご参列を心よりお待ちしております。



日時: 2006年11月23日(木・勤労感謝の日)
午前10:00 記念ミサ(ミサ中初聖体、堅信式)
記念式
午後 1:00 祝賀会
~3:00
場所: カトリック徳島教会 聖堂、ホール

カトリック徳島教会
主任司祭 マヘル・ウィリアム

「教区民のつどい」のご案内

今年は、四国4県の各県単位で「教区民のつどい」が開催される予定です。各地区の開催要領をお知らせします。多くの方のご参加をお待ちしています。

愛媛地区

カトリック愛媛地区の皆様、9月17日は今治でお会いしましょう。

名称: 2006カトリック愛媛地区「教区民のつどい」
テーマ: あしたの教会を創ろう
日時: 2006年9月17日(日)
9:30受付 10:00開始
場所: カトリック今治教会
講師: 溝部 脩 司教
主催: 愛媛地区信徒使徒職協議会
主管: カトリック今治教会

高知地区

名称: カトリック高知地区「教区民のつどい」
テーマ: 『一致と聖体』について
日時: 2006年10月29日(日)
9:30のミサから、15:00まで
場所: 江ノ口教会
講師: 溝部 脩 司教
主催: カトリック高知地区宣教司牧評議会
主管: 江の口教会
要領: ミサのあと引き続き溝部司教の基調講話を聞き、昼食後13:00からテーマに沿って、溝部司教様と対話方式で15:00まで質疑応答を行う。

徳島地区

名称: カトリック徳島地区「教区民のつどい」
テーマ: 「ご聖体について」
日時: 2006年10月15日
9:30~15:00
場所: カトリック徳島教会
講師: 溝部 脩 司教
主催: カトリック徳島地区宣教司牧評議会
要領: 講話についての分かちあいとミサ

香川地区

名称: 2006カトリック香川地区「教区民のつどい」
テーマ: 一致と聖体について
日時: 2006年11月5日(日)
10時~15時(9時30分受付開始)
会場: カトリック桜町教会、桜町聖母幼稚園
四国カトリック会館
主催: カトリック香川地区信徒使徒職協議会
要領: 親睦をはかるミニ運動会の後、司教講話、ミサ

映画「Nagasaki 1945 アンゼラスの鐘」上映のお知らせ

前号(112号)に掲載したアニメ映画「Nagasaki 1945 アンゼラスの鐘」の上映日時等が次の通り決まりましたのでお知らせします。

ただいま前売券販売中です。販売所は、教区事務所にお問い合わせください。

上映日時： 2006年10月7日(土) 第1回 10:30~12:00 (開場10:00)
第2回 14:00~15:30 (開場13:30)

場 所： 香川県県民ホール (アクトホール)

前売り入場料金

一 般： 1,000円 (当日 1,200円)
学 生： 600円 (当日 800円) 小・中・高校生
親子券： 1,500円 (当日券なし) 一般と学生各1名のペア券
幼 児： 無料

☆☆上映スタッフ募集中☆☆ (教区事務所までお申し出ください。)

高松教区生涯養成委員会

お知らせコーナー



投稿記事募集

【字 数】原稿は300字以内 (写真歓迎)

【内 容】記事の内容は自由、ただし中傷・誹謗はご遠慮下さい。

～その他募集要領は高松教区報109号(2006年1月1日)に記載のとおり～

【投稿先】メール：tk-koho@mxi.netwave.or.jp

郵 便：〒760-0074 高松市桜町1丁目8-9

カトリック高松司教区広報担当 宛

(Tel.087-831-6659)

F A X : 087-833-1484

司 教 日 程

9月5日(火)	司祭評議会	10月3日(火)	司祭評議会、国際宣教神学院始業ミサ
9月7日(木)	常任司教委員会、カトリック新聞記者会	10月5日(木)	常任司教委員会
9月8日(金)	グアルダルペ宣教会50周年式典	10月7日(土)	「アンゼラスの鐘」鑑賞
9月16日(土)	カトリック大学全国大会 (北条カタリナ大学)	10月8日~9日(日~月)	高松教区全司祭研修会
9月17日(日)	愛媛地区教区民のつどい	10月10日~12日(火~木)	大分殉教者巡礼と岐部祭
9月22日(金)	宣教司牧評議会役員会	10月15日(日)	徳島地区教区民のつどい
9月24日(日)	高山右近顕彰会(金沢)	10月16日(月)	殉教者列福調査特別委員会(長崎)
9月25日~10月2日(月~月)	日本殉教者公式巡礼	10月24日(火)	東京教区司祭研修会
		10月29日(日)	高知地区教区民のつどい

編集後記

溝部司教様が着座されて二年余り、教区報も今号で一〇号目になります。バックナンバーを見返すと、司教様のこの二年間の奮闘されてこられた軌跡が歴然と見て取れます。司教日程を見るだけで、高松教区だけでなく日本の教会のために日々東奔西走されている様子がわかります。そのことがひいては高松教区のためにもなるのでしょうか。教区内では、ほとんど何もなしの中から事務局機能の強化を手始めに、諸委員会を立ち上げ、司祭評議会と宣教司牧評議会を両輪に難局に立ち向かわれています。教区の一一致、協力宣教司牧、青少年の育成、召命、典礼の充実、信徒の生涯養成、教区財政の建て直しなど、いずれをとっても一筋縄ではいかなぬものばかりです。しかし、信頼を築きながら過程を一つ一つ越えていく手法は同じです。急がば回れ。歩みは遅くとも確実に処方は進んでいるように思われます。前号のこの欄で、住吉編集委員が触れていたとおり、司教様は良薬の処方箋を書き続けておられる。それを如何に伝えていくか？広報委員会の重要な役割の一つです。

(広報委員 多田洋)

